

N.CYCLEプロジェクト-地域サーキュラーエコノミー社会の構築-

長岡バイオエコノミーコンソーシアム

長岡バイオエコノミーコンソーシアムは、59団体が参加する多様な知を集結したコミュニティであり、情報交換と連携を通じて協力体制を拡大している。その中で発足したN.CYCLEプロジェクトには、地域の農業団体や企業、大学、自治体が参画し、参画団体が持つ知である経営資源を持ち寄り、地域の強み分野である稲作農業、ものづくり、バイオの観点から、地域資源循環を軸に持続可能な地域サーキュラーエコノミー社会の構築を目指している。

総合知により目指すビジョン / 解決する社会課題

稲作農業、ものづくり、バイオの視点から地域資源循環を軸に地域農業と産業を活性化する。将来的には一次～三次産業と大学、自治体が連携し、持続可能な地域サーキュラーエコノミー社会を実現する。

ビジョン達成の課題

継続的な取り組みを支える資金・人材の確保、関係者間のwin-winな関係性の構築、意識改革と技術革新の推進、循環の原資確保が求められる。ブランディングによる意識統一も重要となる。

「矩」を超えた場づくり / 得られた新たな価値

新潟県長岡地域の農業団体、企業、大学、自治体が参加し、長岡バイオエコノミーコンソーシアムの下、シンポジウム等を通じて多様な知を集結し、連携と意識の統一を図っている。具体的な取り組みとして、炭化粃殻活用やJ-クレジット創出による新たな価値創造を進めている。

N.CYCLE資源循環イメージ図

農家、企業、教育機関、行政など、それぞれの知恵や技術を組み合わせることで、お米に関わる人みんなが笑顔になれる新たな循環を生み出します



N.CYCLEプロジェクト

「お米とともに、より良い未来へ」知と技の融合で資源循環モデルづくりへ

長岡バイオコミュニティの推進母体である長岡バイオエコノミーコンソーシアムは、長岡市内外の59団体の多様な知を持つコミュニティであり、情報交換を行いながら協力体制の輪を広げている。その中で形成されたN.CYCLEプロジェクトは、地域の農業団体、企業（農業法人、堆肥製造企業、食品加工・販売企業、飲食業、広告デザイン企業）、大学、自治体が参加している。本プロジェクトは、参画団体が持つ知である経営資源を持ちより、地域の強み分野である稲作農業、ものづくり、バイオの観点から、地域資源循環を軸に持続可能な地域サーキュラーエコノミー社会の構築を目指している。

現状の課題

課題1◎稲作農業の収益性向上

継続的な試行錯誤を容認できるヒト・モノ・カネの確保及び関係者のwin-winな関係性の構築。

課題2◎地域サーキュラーエコノミー社会の構築

ヒトの意識改革、モノの循環のための技術革新とその原資の確保。

総合知により目指すビジョン

**地域の一次・二次・三次産業と大学、自治体が協業することで
持続可能な地域サーキュラーエコノミー社会の構築を目指す**

本プロジェクトでは、農業団体、企業、大学、自治体がつなぐ知である経営資源を持ちより、地域の強み分野である稲作農業、ものづくり、バイオの観点から、地域資源循環を軸に地域農業および産業の活性化を目指す。まずは、稲作農業の収益性向上のため、未利用資源である籾殻を炭化し土づくりの研究に着手するとともに環境価値の創造（J-クレジット）に取り組んでいる。

—N.CYCLEによる地域資源循環イメージ—



「Nagaoka からNiigata、そしてNipponへ」と広がる資源循環モデルを創造します

Jクレジットを活用した取り組み



地域資源循環の理解増進のための取り組み



長岡市内の中学校での食育授業の実施

子ども世代に対し、食と農業の将来に向けた産地の努力や農業によって育まれた食の伝統や文化など『農業の重要性』を積極的に情報を発信します。



料亭 かも川本館によるN.CYCLE米づくり

長岡の地で70年以上愛されてきた「料亭 かも川本館」がN.CYCLE圃場にて田植えを実施、料亭にて社員の手で作ったN.CYCLE米を提供しています。